

ブルーベリーの温暖地での高品質化に向けた栽培及び育種研究

【研究概要】

ブルーベリーでは労力のかかる個別収穫が必要であること、暑さ・乾燥に強く果実品質の優れる品種がないことが課題である。ブルーベリーの交雑育種研究ではこれまでに、種間雑種の一部が単為結果性かつ房取り適性を有することを明らかにし、耐暑性・耐乾性の優れる日本在来野生種とブルーベリーとの節間雑種作出に成功した。そこで、温暖地での高品質・省力栽培を可能とする新品種を育成するとともに、温暖地適応性や房取り適性を有する雑種の効率的な作出・評価法を確立するための試験に取り組んだ。その中で、今年度は下記の2つの成果が得られた。

(1) 新品種に適した栽培技術の確立

コンテナ栽培定植2年目の着果制限が樹体生育、収量及び果実品質に及ぼす影響について調査した。剪定と摘蕾により、花芽数と花数を制限し、想定通りに着果制限できることを確認した。着果1年目ということもあり、果実品質等への影響は判然としなかった。また前課題で最終選抜したうちの1系統についての現地試験で定植2年目の生育を調査した。

(2) 新系統の作出

種間雑種TB-02、TB-03、TB-04等について、果実成分と抗酸化能を評価した。雑種集団について5年生時のデータを解析し、大粒・良食味の個体作出のために有望な交配親及び交配組合せについての知見を得た。また前課題から選抜中の有望系統について特性調査を行い、選抜を進めた。